

平成29年度 施策評価表

課・グループ名	生涯学習課社会教育グループ
---------	---------------

作成年月日：平成30年9月28日

施策名	3-(3)-② 青少年健全育成の充実		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(3) 豊かな心を育てる生涯学習・社会教育の推進	②青少年健全育成の充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習サポーターの協力を得て、家庭と学校との連携を図り、学習活動や体験活動などを実施し、安全、安心な子どもの居場所づくりに努めます。 ● PTAや子ども会育成連絡協議会などの関係団体と連携し、子どもたちの健全育成に関する意識啓発を図り、地域の教育力向上に努めます。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化していくなか、親子でのふれあいや、異年齢との交流の不足、地域での人間関係の希薄化、地域活動への関心の薄れなどが指摘されています。 ● 子どもたちが、豊かな感性や協調性など、社会において生きる力を身に付けるために、地域全体で子どもたちを守り育てるといった環境整備が求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの多様な学習活動や体験活動、地域の人たちとの交流などが、安全、安心にできる場を充実することが必要です。 ● 子どもたちの学びや、活動を支えることのできる地域コミュニティを再生し、家庭・地域・学校、関係機関が一体となった青少年健全育成活動の取り組みが必要です。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化	
	子どもたちの多様な学習活動や体験活動、地域の人たちとの交流などを安全、安心に実施する場を充実させるためには、家庭・地域・学校が連携することが必要となるため、事業に関わった住民の人数を成果指標とした。			成果指標 (総合計画・施策評価)		○ 可 能	
				青少年健全育成事業に関わった住民		未計測	
				代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定	
						可 能 不 可能	
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H26	H27	H28	H29	H33	
目 標	人		-	-	830	830	放課後子どもプラン推進事業、子ども会育成連絡協議会事業ともに参加する児童生徒数により関わる住民の人数も増減するが、概ね目標は達成されている。
実 績	人		798	679	761		
達成率	%				91.7%		
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				施策の 達成度	少子化により事業に参加する児童生徒の人数が減少することが想定されるため、生涯学習サポーターの積極的な活用や保護者の積極的な参加を促すことが課題である。
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				B	
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】 事務事業の種類	【必要性】 事務事業の必要性	【妥当性】 町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H29実績	H30予算
					実 績								
1	青少年健全育成事業	(1)	生涯学習課	参加者数	3,300	人	①放課後子どもプラン推進(あそびの達人教室・なんぼろMANABI家) ②青少年健全育成協議会の開催 ③青少年の健全育成を考える集いの開催 ④子ども会育成連絡協議会支援	I	I	1 現状のまま継続	1,756	高い	
					3,547	人					2,527		
2													
3													
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
											H29事業費	1,756	
											H30予 算	2,527	

②H30に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の 妥当性	青少年の健全育成は、家庭・学校・地域・行政が連携して進めることが重要であり、青少年に関する各種事業を青少年健全育成事業として整理しており、効果的、効率的な事業構成として妥当である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	A	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)									
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の 方向性	事業番号					平成30年度以降 の予算の方向性	
			A						
			B	1					拡大
			C						○ 維持
		D					縮小		